



## 第8回あきたの教師力高度化フォーラムを開催

12月18日水曜日16時より、「『主体的に学習に取り組む態度』の評価の趣旨とその展開」と題して、表記のフォーラムが60周年記念ホールで開催されました。県内外の教育関係者約60名の参加がありました。

第一部では、関西学院大学の学長特命・高大接続センター副長で教授の佐藤真先生から、「『主体的に学習に取り組む態度』の評価の趣旨」と題した基調講話が行われました。佐藤真先生は1962年秋田生まれで、本学教育学研究科を修了しています。秋田の公立学校教諭、附属小学校教諭を経て、2001年から2013年まで兵庫教育大学の講師、助教授、教授、2014年からは関西学院大学教授を務めています。中央教育審議会専門委員であり、「児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ」の委員でもある他、文科省の各種の委員、協力者等を務めています。

第二部では、「『主体的に学習に取り組む態度』の評価をどのように展開するか」と題して、佐藤真先生と附属小学校長の成田雅樹教授、教職実践専攻長の佐藤学教授による鼎談が行われました。

いよいよ来年度に迫った、小学校学習指導要領の完全実施を控えて、大変有意義な情報を得ることができました。

秋田大学教職大学院／秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター

### 第8回 あきたの教師力高度化フォーラム

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の趣旨とその展開

次年度からいよいよ小学校の学習指導要領による教育がスタートします。資質・能力の三つの柱を受けて、指導と評価の一体化を推進する観点から、評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に改められました。「主体的に学習に取り組む態度」の評価を適切に進めるため、その趣旨とその具体について、中央教育審議会「児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ」委員の佐藤 真 氏（関西学院大学）をお招きして考えます。

**日時** 令和元年12月18日(水) 16:00~18:00 (15:30受付・開場)

**場所** 秋田大学60周年記念ホール(3-145)

**対象** 教員志望学生・院生、教職員・研究者、教育委員会指導主事・研修員等

**第1部** 16:05~17:05 (基調講話)  
「主体的に学習に取り組む態度」の評価の趣旨  
関西学院大学 学長特命・高大接続センター副長・教授 佐藤 真 氏

**第2部** 17:10~17:55 (鼎談)  
「主体的に学習に取り組む態度」の評価をどのように展開するか  
鼎談者： 関西学院大学 学長特命・高大接続センター副長・教授 佐藤 真 氏  
秋田大学教育文化学部附属小学校 校長 成田 雅樹 氏  
秋田大学大学院教育学研究科教職実践専攻長 教授 佐藤 学 氏

【主催】秋田大学教育文化学部・秋田大学教職大学院  
 【共催】秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター  
 【後援】秋田県教育委員会／秋田市教育委員会  
 【問い合わせ先】秋田大学教育文化学部総務担当  
 〒010-8502 秋田市学形学園町1-1  
 ☎018-889-2509 Fax018-833-3049 E-mail kyosou@jimu.akita-u.ac.jp  
 【申し込み方法】  
 参加を希望の場合は、12月6日(金)までE-mailまたはFaxにより所定の申し込み書を送付願います。



## 特別支援教育コースの学び

### 特別支援教育コース3年次 東海林紗季子

特別支援教育コースは、各学年約15人ずつの全体でも60人程の小規模でアットホームなコースです。本コースで、私たちは様々な体験を積み重ねながら特別支援教育を中心にたくさんのことを勉強しています。ここでは、特別支援教育コースならではの特徴的な行事やサークル活動について紹介していきます。

まず、春に新入生歓迎会とお花見があります。入学してきた新しい仲間と親睦を深め、新しい年度のスタートをきります。夏には、長い夏休みを使って教育実習や身体障害者コロニーへ実習に行きます。座学だけでは学べない、実感のある学びを得ることのできるとても貴重な機会です。秋には、大学祭の模擬店で1年生と2年生がお団子を売っています。とても美味しいので、機会がありましたらぜひ食べにいらしてください。また、昨年からのコースのみんなと教授陣と一緒に研修旅行にも行っています。普段、なかなか話す機会がない教授や先輩たちとたくさん関わることができ、とても楽しかったです。また、運動不足の解消のためスポーツ祭も開催しています。今年は、バレーボールと大縄跳びをしてみんなで盛り上がりました。翌日の筋肉痛も今となってはよい思い出です。冬には、忘年会で1年間を振り返ります。

このように、特別支援教育コースは行事が多く、先輩と後輩や教授との結びつきが強いことが特徴です。この他にも、通年でのサークル活動を行っており、現在は6つのボランティアサークルがあります。そこで、聴覚支援学校へ交流会に行ったり、知的障害や自閉症の方と関わったりしながら楽しく活動しています。この様々な人との関わりが後々の教育実習や大学生活でとても役に立つと思います。特別支援教育コースは、たくさんの人に出会える、そしてたくさんのことを学ぶことができる素敵なコースです。皆さんも、ぜひ遊びにいらしてください。



### 特別支援教育コース 3年次：倉光 真穂

このコースでは、特別支援学校教諭の免許状はもちろん、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の免許状も取得できるので、一人一人が自分の将来像に合わせた選択をすることができます。近年では、障害のある子どもと障害のない子どもが、同じ場で共に学ぶことを目指した「インクルーシブ教育」が推進されています。私は、特別支援学校と公立学校のどちらに配属になっても、全ての子どもが共に楽しく学べるような環境づくりができる教師になりたいと思っているため、4年間で各障害の心理・生理・病理と、その支援について学べるこのコースに入ってよかったと感じています。

また、他のコースとは違い、1年生から研究室に入ることができます。そのため、教育実習や教員採用試験などの情報を早くから聞くことができ、安心して臨むことができるという魅力があります。3年生になるとコースに所属している5人の教授陣の中から、自分の研究テーマや学びたい領域に合った教授と一緒に、ゼミを通してテーマを深く掘り下げていきます。私のゼミでは初めに、新聞の障害に関する記事を読んで考察したり、各自で設定した議題についてワークショップを行ったり、自分の興味・関心はどこにあるのか意見交換を通じて整理をしました。そのおかげで自分の本当にやりたいことに気付くことができ、今年の初めには自分がどんな研究をしたいのか何一つ定まっていませんでしたが、今ではどんな方法で研究を進めていくか、誰を対象にするかといった、具体的な部分について考えるところまでできています。

一人で考え込むのではなく、教授とゼミの仲間に分からないところは聞いて、力を貸してもらいながら考えた方がよりよいものができるという、大切なことも学ぶことができました。来年からついに卒業研究に着手しますが、しっかりと前準備を進めて、教員採用試験も研究も成功できるように少しずつ頑張っていきたいと思っています。

## 学生協議会学生委員に就任しての期待・抱負

### 地域社会コース3年次 伊沢 慧

心理実践領域所属です。学生協議会の活動を通じて、教育文化学部の学科、コース、学年を問わず色々な人と関わり、皆さんの大学生活をより良くするための一歩に貢献したいと考えています。1年間よろしくお願いします。

### 人間文化コース3年次 根本優花

去年も学生協議委員会に参加させていただきましたが、オープンキャンパスくらいでしか活動に関われませんでした。よって、今年はより多くの活動をしていきたいです。特に、大学の公式サイトがあまり充実していないように感じるので、より充実させ、多くの人に見てもらえるように頑張りたいです。また、私自身が学生達についてよく知らないのもっと周りに関心をもって、大学生の生活がより良くなるように努めたいです。

### 人間文化コース3年次 松橋 茜

昨年度は、オープンキャンパス以外に組織単位での目立った活動があまりなかったという印象がありますので、もっと活発に活動したいと思っています。個々が自主的に自分たちの学生生活をよりよくするためにはどうしたらいいのか考えていけば、すぐには改善できなくとも、少しずつ変化していくと思います。今年度は、もっと学生協議会のメンバーとコミュニケーションをとって協力していきたいです。

### 地域社会コース2年次 池田咲希

私が秋田大学に入学してもうすぐ2年になるうとしています。私にとって秋田大学は授業や自主学習を通じて「学んでみたい!」と思ったことを学んだり、サークルや学内で企画しているイベントを通じて「やってみたい!」と思ったことに挑戦したりできる場所です。これらの経験を通じて自分自身の視野が広がり、以前より物事に対する考え方が柔軟にかつ多角的になったと感じています。このように様々なことを経験できた秋田大学に感謝し、秋田大学のために自分が何かできるこ



2019 オープンキャンパスでの活動

とはないかと考え、今回学生協議会を務めさせてもらうことにしました。学生協議会では意見交換やボランティア活動を通じて多くの人にとって秋田大学が学びや活動をする上でより良い環境となるように努めたいです。また、活動を通じた新たな出会いや自分自身の変化も楽しみです。よろしくお願いします。

### 副代表 国際文化コース2年次 鈴木進之介

去年に引き続き今年もやらせていただきます!これまで運営に携わることや企画を考えることなどの経験があまりなかったので、学生協議会を通じて有意義な経験を得られればと思います。また、普段なかなか関わることもない学科の人や先輩などとの交流ができることも貴重であるため、新たな刺激を得られる良い機会であると思っています。協議会の一員として頑張りたいです。

### 教育実践コース1年次 長雄彩生

貴重な機会をいただいたことをとても嬉しく思います。学生の皆さんの大学生活をより有意義なものにするために、学生としての意見や視点を大学の取り組みや諸活動に活かし、よりよい大学、学部となるよう尽力したいです。至らぬ点も少なからずあるとは思いますが、よろしくお願いします。

### 地域文化学科1年次 工藤やよい

私自身、高校時代にオープンキャンパスで秋田大学教育文化学部を訪れた際、学生協議会の先輩方にお世話になったことをよく覚えています。自分たちの学生生活や学校がより良いものになるように、先輩方の築き上げたものを大切にしながら、活動したいと思っています。一年間、よろしくお願いいたします。

### 地域文化学科1年次 佐藤翔太

自分が学生協議会の活動に参加することで、大学生一人一人が、今よりほんの少しでも快適で楽しい学生生活を送られるようになると良いなと思います。学生の視点から、学生の声を届けることのできる立場にあることを生かして、秋田大学がより輝きを放つことができるように努めていきたいです。どれだけ改善しても、次から次へと気になる点は出てきてしまうものであるように感じるため、どれほど自分が貢献できるかは分かりませんが、できる限り頑張ります。よろしくお願いします。

## 2019 年度国際文化カフェ「国際文化コースの歴史分野の紹介」を開催

国際文化講座 内田 昌功

国際文化講座では、2017 年度から、あきた未来カフェ事業の一環として、国際文化カフェを開催しています。本年度は 12 月 7 日（土）に教育文化学部 3 号館 254 教室を会場として、「国際文化コースの歴史分野の紹介」というテーマでカフェを開催しました。地域文化学科は 2018 年度に改組を行い、人間文化コースは国際文化コースに改組されました。その際、カリキュラムにおいて「歴史文化」、「表象文化」、「コミュニケーション文化」という 3 つの柱が設けられました。本年度の国際文化カフェは、こうした動きをふまえて、「歴史文化」分野のカリキュラムや授業、卒業後の進路について学生に知ってもらい、あわせて歴史学を学ぶことの意味や、地域活性化における歴史学の役割等について考えてもらうことを目的としたものです。今回は、1 年生 3 名、2 年生 3 名、3 年生 4 名、4 年生 1 名、計 11 名が参加しました（いずれも地域文化学科の学生）。

まず歴史学担当教員から大学における歴史学の授業の特徴について説明がありました。歴史学の研究においては原典史料に基づいて考えることが基礎になります。そのため大学の歴史の授業では、史料を読む練習や、史料に基づいて考えることに重点が置かれています。これらの点は高校までの歴史教育とは異なる点で、大学の授業の特徴になります。まず以上の点について説明があり、具体的な授業の紹介として、3 年生による特定地域研究ゼミの成果発表を行いました。研究テーマは「秋田藩の治水と林業」で、秋田藩の法令集である「町触控」を史料とし、またフィールドワークも行いながら、城下を流れる旭川の治水の状況や、護岸のために漆や桑などの益木が堤防に植えられていたことを明らかにしました。



研究発表をする 3 年生

次いで担当教員から卒業研究と卒業後の進路について説明がありました。卒業研究は大学での学びの総まとめであり、どのように準備をするか、



学生からの質問に答える卒業生ゲスト

必要な知識や技術、研究の手順、具体的なテーマの事例等について説明がありました。卒業後の進路については、過去の卒業生の具体的な就職先が示され、傾向や特徴について説明がありました。

最後に 3 名の歴史分野の卒業生にゲストとして参加してもらい、学生と卒業生との交流を行いました。今回、参加していただいたのはいずれも県内の自治体や法人に勤務し、地域の中で活躍している卒業生で、現在の仕事、学生時代の思い出、卒業研究のテーマ、大学で学んだことが現在の仕事や生活でどのように役に立っているか、歴史を学ぶことの意味、大学生時代にやっておくべきこと等について話をしてくださいました。質疑では「卒業研究のテーマが決まらず悩んでいるが、いつごろ、どのように決めたらよいか」、「学芸員になりたいが、どのように準備をしていったらよいか」、「お勧めの本」等、たくさんの質問が出され、時間を超過して活発な質疑応答が行われました。3 名の卒業生はいずれも現在は歴史学とは直接関係しない仕事にたずさわっていますが、そうした中で大学で学んだことがどのように役立っているか、また歴史を学ぶ意味は何か、といったお話は、学生にとって大学生活や進路について考える上で大いに参考になったものと思われます。

終了後、参加した学生からは以下のような感想がありました。

- ・コースの授業や卒業研究のことなど、多くのことを知ることができよかった。
- ・先輩方の現在の仕事や生活において、大学での学びが役立っていると実感し、将来について考える上で非常に有意義な機会だった。
- ・関心を持っている歴史学に関して、授業のことや卒論について多くのことが明確になりました。公務員への就職や仕事について話を聞けたので、今後の就活に活かせるようがんばっていきます。

## 令和元年度第 64 回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦大会で全勝優勝を学長に報告

秋田大学男子ハンドボール部（監督：教育文化学部・佐藤靖特別教授）に所属する学生等が、カメイアリーナ仙台、塩釜ガス体育館、仙台大学体育館を会場に行われた令和元年度第 64 回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦大会（9 月 21 日～23 日、28 日～29 日）で全勝優勝したこと、セキスイハイムスーパーアリーナで行われる高松宮記念杯男子第 62 回・女子 55 回全日本学生ハンドボール選手権大会（11 月 8 日～12 日）（以下、全日本インカレ）に出場することを山本文雄学長に報告しました。

山本学長が大学時代に所属していた部活動の話で盛り上がり、社会に巣立ってもチームメイトは大切にしたいなど、報告は和やかなムードの中で行われました。

主将の藤田さんから「優勝できたことは素直に嬉しい。勝つためにはハードな練習も必要なこと。11 月のインカレでは 1 試合でも多く勝つため、よ

り一層練習に励みたい」との挨拶がありました。山本学長は「全国の舞台でも活躍することを期待している。日々ハードな練習だと思うが、仲間と励まし合い懸命に取り組んで欲しい」と同大会での活躍を激励しました。



【全学HPから転載】

## 第 1 回秋田教員養成連携協議会を開催

12 月 18 日 15 時から第一会議室で、表記の会が開催されました。この協議会は、秋田県教員育成協議会と連携し、秋田県内において教員養成を行っている大学、学部等の相互の連絡及び連携を図ることによって、教員養成の高度化を実現し、秋田県を中心とした教員の資質能力の向上及び教育の充実・発展に寄与することを目的とするものです。そのために、本協議会は、

- ①教員養成・教職課程認定に関わる政策や動向、現状に関する意見交換や情報交換・提供を行うこと
  - ②秋田県教育委員会及び県内市町村教育委員会、保育関係部局、各種教育・保育団体との連携を図ること
  - ③教員養成の充実を図るため、フォーラム及びシンポジウムを開催すること
- を行います。

会長は要項の規定により、教育文化学部長が務めます。この日の会議において、副会長として、白山雅彦（秋田県立大学教授）、新田純子（日本赤十字秋田看護大学教授）を選出しました。他の委員は、石橋英一（秋田公立美術大学特任教授）、佐藤健公（国際教養大学教職課程代表）、永井博敏（聖園学園短期大学教授）、横溝真理（聖霊女子短期大学教授）、鈴木翔（秋田大学理工学研究科講師）、

佐々木和貴（秋田大学教育文化学部副学部長）、佐藤学（秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター長）、森和彦（秋田大学教員免許状更新講習推進センター長）、山名裕子（秋田大学教育文化学部教授）となります。

会議では、本学部・研究科における教員養成のシステム、教職高度化センターの内容に関する報告の後、各大学・学部等における教員養成の状況について、情報交換を行いました。終了後は、引き続き、第 8 回あきたの教師力高度化フォーラムに参加された委員の方もいました。今後も、フォーラム等とつなげて開催することで、他大学・学部のみなさんにとっても有益な情報が得られ、共通FDとしての機能も果たせるように工夫していきます。年に 1 回から 2 回の開催を予定しています。

本学部・研究科は、秋田県内における教員養成のハブ的機能を果たすことが求められています。これまでも、他大学等の教職課程の非常勤講師を本学部教員が務めてきたわけですが、このような連携組織はなく、それぞれに個別の対応が行われてきました。教員育成指標や教員育成協議会に見られるように、これからの教員養成、教員研修については客観的、専門的な観点から質保証を行うことが求められます。

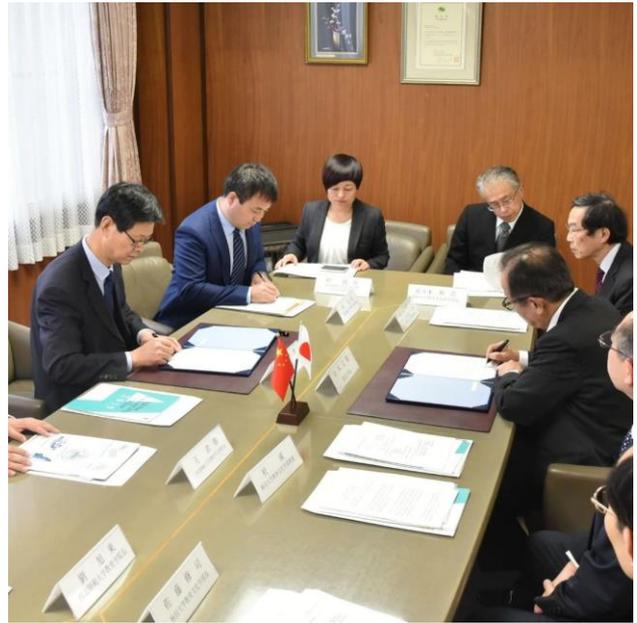
## 秋田大学と西北師範大学が大学間協定を締結

12月12日、秋田大学と西北師範大学とが大学間協定を締結しました。今回の協定締結により、本学の大学間国際交流協定校は、30か国・地域の61大学となりました。

劉仲奎学長、劉旭東教育学院長（日本でいえば教育学部長にあたる）、何玉紅歴史文化学院長（歴史文化学部長）、王君朝国際合作交流処長（国際交流センター長）、程朝侠外国語学院（外国語学部）日本語学科主任の5名の方々と、10時に教育文化学部を訪問し、学部長、杜教授、内田准教授と懇談した後、授業見学を行い、11時からの大学間協定署名式に臨みました。11時半から12時半頃まで、山本学長主催の昼食会に参加されました。

西北師範大学は甘粛省蘭州市にあり、27の学部・学院があつて、学部学生は18000人、修士は7000人、博士は370人、留学生400人という大きな大学です。師範大学は、元は教員養成を目的としていたと思われませんが、現在は法学、経済学などの文系、音楽、美術などの芸術系、理学、工学などの理系までを含めた総合大学です。

今後、教育文化学部が中心となって、学生や教員の留学、交流が期待されます。



全体にわたって杜教授に通訳の労を執っていただき、終始和やかに懇談が行われました。西北師範大学の王先生、程先生は日本語を話されています。

## 「令和元年度秋田大学職員表彰式」で杜威教授が表彰

秋田大学は12月4日、令和元年度秋田大学職員表彰式を挙行了しました。

これは例年12月に、秋田大学職員表彰実施規程に基づき顕著な功績があつた職員を表彰するもので、平成20年度から開催しています。今年度は3名の教職員が表彰されました。

式では、被表彰者に表彰状の授与並びに記念品が贈呈され、同大の山本文雄学長から「教育研究等支援活動における顕著な功績、社会活動及び保健医療活動における顕著な功績により3名が表彰を受け、いずれも他の教職員の模範となり、本学の発展に貢献していただいたことに感謝申し上げます」と挨拶がありました。

【全学HPから転載】

杜先生は、平成15年から、日本で不要となった算数セットの寄付を募り、発展途上国の教育現場に贈ることで、数学教育を支援する活動を行ってきました。

寄贈先であるマーシャル諸島やフィリピン、インドネシア等の算数セットのない国や地域では、

教材の種類が豊富で精巧な日本製の算数セットは好評で、子どもたちが算数の内容を理解する一助になっています。杜先生は日本製の算数セットをより多くの人に届けるべく活動を続けていて、これまでに約150セットを寄贈してきた実績は、発展途上国における数学教育の支援に大きく貢献しています。

このことは、秋田魁新聞の2019年2月19日号で報道されました。



## 秋田大学創立 70 周年記念講演会・式典・祝賀会を開催

秋田大学は、令和元年 12 月 8 日（日）に創立 70 周年記念講演会・式典・祝賀会を秋田市内のホテルで開催し、約 280 名のご来賓・教職員が創立 70 周年を祝いました。



記念講演会では、文部科学省文部科学事務次官の藤原誠氏が「国立大学の更なる飛躍に向けて」と題し講演を行い、高等教育を取り巻く現状や課題、今後の改革の方向性について述べられました。

記念講演会に引き続いて行われた記念式典では、開会に先立ち医学部室内合奏団による祝奏が披露されました。

式典では、はじめに山本学長が、これまでの秋田大学の歩みを紹介するとともに、「これまでの「歴史」と「誇り」、4 学部が築いてきた業績を糧に、より光輝く地（知）の拠点形成に邁進していきます」と式辞を述べました。

また、萩生田光一文部科学大臣（代読：淵上孝文部科学省高等教育局国立大学法人支援課長）、秋田県堀井啓一副知事から祝辞をいただきました。



式典の後半では、秋田大学創立 70 周年記念事業として実施した秋田大学ロゴマークデザイン募集において、多数の応募の中から選考委員会が決定した新しいロゴマークがお披露目されました。

ロゴマークをデザインした国際資源学研究科博士後期課程のレザ・フィルマンシャー・ハシブアンさんと、国際資源学研究科博士前期課程のアンデリアンシャー・グルシंगाさんへ、選考委員長の山本学長から表彰状と副賞の目録が授与されました。

続いて、秋田大学創立 70 周年記念事業として実施した学生懸賞論文の表彰式が行われ、最優秀賞を受賞した医学部長谷川苑子さん、優秀賞を受賞した教育文化学部森井基貴さん、田口志織さんにそれぞれ表彰状と副賞の目録が授与されました。



式典後には会場を移して記念祝賀会を開催しました。祝賀会では、山本学長の挨拶に続き、弘前大学 佐藤敬学長、岩手大学 岩淵明学長から祝辞をいただきました。三浦亮 元秋田大学長が乾杯の発声を行い、参加者の歓談とともに、秋田大学医学部室内合奏団と秋田大学 JAZZ 研究会による演奏が披露されました。

祝賀会の最後は吉村昇 元秋田大学長による挨拶と乾杯で締めくくり、終始和やかな雰囲気の中、盛大に秋田大学の創立 70 周年を祝いました。



【全学HPから転載】

フランスの詩人、小説家、批評家などとして知られているアポリネールは、ポーランド系ロシア帝国人の母親とイタリア軍人の父の間に、ロシア国籍を持って、1880年ローマに生まれた。モナコ、カンヌ、ニースといったフランスの地中海沿岸で少年期を過ごしたアポリネールは、1899年パリにやって来る。その後の約20年間、彼は詩人としてまた小説家として活躍する。さらに、ピカソを始めとするキュビストや、マリー・ローランサンその他多くの画家達の友人として美術批評を行ったり、アンドレ・ブルトンやジャン・コクトーといった作家達の先輩格として、様々な芸術活動を行った。1914年に第一次世界大戦が勃発した際、彼はロシア国籍ながらフランス軍に志願して実戦に参加する。前線にいた1916年3月、フランスへの帰化がようやく認められる。しかしその数日後、砲弾の破片を頭部に受け負傷、一命はとりとめたものの、パリへ送還され手術を受ける。除隊後、文筆活動を再開させるが、1918年、その年猖獗を極めた「スペイン風邪」として知られるインフルエンザによって死去した。



アポリネールが活動した20世紀初頭、それはライト兄弟が初飛行に成功して以来、フランスでも盛んに飛行機の形が模索されていた時代であり、またモータリゼーション前夜とも言われた時代である。そして、電信や電話の回線が世界的に広がり、蓄音機やSP

盤さらに映画といった、様々なメディアテクノロジーが普及し始めた時代であった。

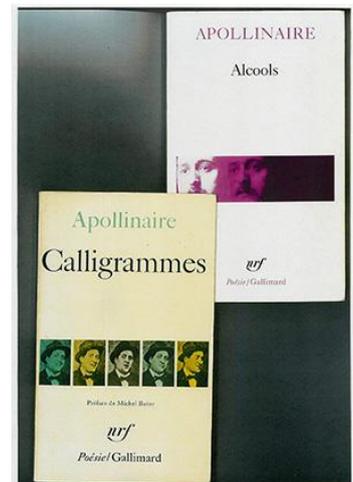
こうした社会の変化に対して、芸術の分野でも様々な新しい試みがなされた。例えばピカソは1907年に『アヴィニョンの娘達』という、キュビズムの元祖と呼べる様な大胆な作品を描き、アポリネールを含む友人達を驚愕させるが、やがてアポリネールは、ピカソやキュビスト達を強く擁護する論陣を張り、自らの詩や小説にも新たな地平を開こうと考えた。

さて、詩人アポリネールの代表的作品と言えば、『アルコール』と『カリグラム』という二つの詩集である。詩集『アルコール』は、近代的な都市生活

情景などを活写して有名になる。また従来 of 詩の規則に縛られず、作品ひとつひとつが持つリズムを優先するため、全ての詩から句読点を削除した。これは当時としては画期的であった。中でも、*Sous le pont Mirabeau coule la Seine ...* という有名なフレーズで始まる「ミラボー橋」は良く知られており、堀口大學の訳詩集『月下の一群』にも収められている抒情詩である。もう一つの詩集のタイトルになっている「カリグラム」とは、「カリグラフィ」＝文字を美しく見せる術と「イデオグラム」＝表意文字という二語から作られた単語である。代表作は「短剣で刺された鳩と噴水」であろう。内容は、戦争で遠く離れた恋人や友人達を思う歌だが、文字で絵を描く手法で鳩、噴水、水盤が描かれている。全てがカリグラムで構成された詩集ではないが、印象的なカリグラムがいくつも収められている。

こうした試みからも分かる様に、アポリネールの詩の在り方とは、言語表現としての模索・実験という側面を持ち、20世紀の新たなテクノロジーの時代に、詩にはどんな表現が可能なのか、という問題意識を内包したものになっている。

アポリネールが使い始めた「シュールレアリスム」という語が、彼の死後アンドレ・ブルトンを中心とする一大ムーブメントとなったこともあって、アポリネールはシュールレアリスムの先触れを行った詩人と見做された時代もあった。しかし現在では、シュールレアリスムだけでなく、様々な芸術の可能性を探ろうとした詩人であって、同時代以降の多くの人々にその影響が及んだ詩人である、と考えられる様になった。従って、現在のアポリネール研究者達は、彼が残した作品や文章に、単に文学・芸術史上の一作家の姿だけではなく、例えば19世紀的な生活感覚からの変化や、人類が初めて経験した近代的な戦争体験とその表象、あるいはメディア横断的に広がる感性といった問題性の現れを感じ取り、それらをめぐってアポリネール作品の特質を読み解いて行こうとしている。



## 学部内にある彫刻などー学部の歴史をたどる⑬

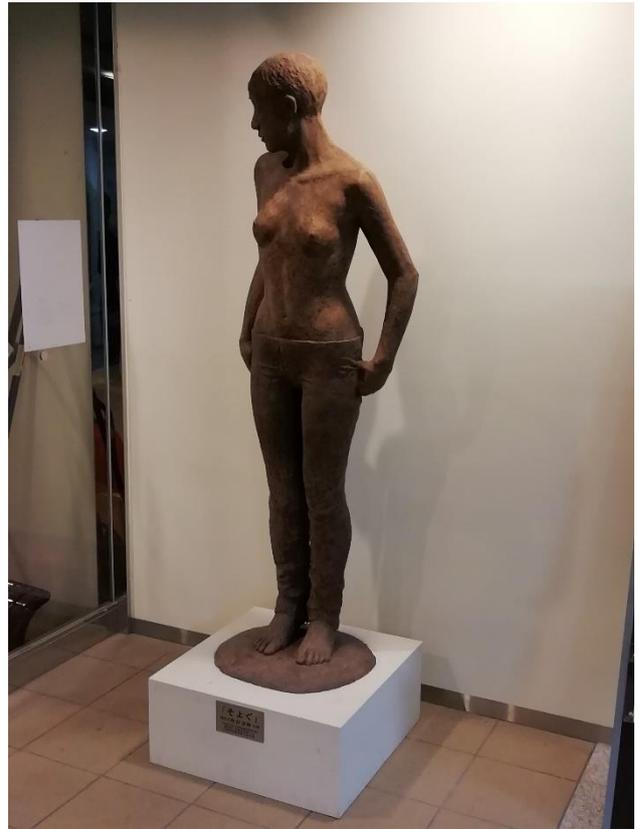


これは峯田敏郎の「記念撮影-北防波堤-」と題した作品です。1990年11月制作のもので、もとは本部管理棟1階玄関にあったものですが、12月に本学部4号館1階入り口に移設しました。

峯田は1939年山形市生まれで、1964年に東京教育大学芸術学科を卒業、1965年に東京教育大学教育学専攻科を修了後に、北海道教育大学岩見沢校の助手、助教授となり、1977年に秋田大学助教授、教授となり、1986年に上越教育大学教授となり、1996年から2003年まで筑波大学教授を務め、2006年まで崇城大学教授を務めました。今は茨城県在住です。1995年には紺綬褒章を受章しました。



左は本部管理棟にあったときの写真です。「北」も「防波堤」もことなく寒さや厳しさを感じさせるものですが、服装からすると、穏やかな日本海をまっすぐに見つめているように感じます。岸壁に座る姿と立つ姿、短髪と長髪、短いスカートと長いスカートが対照的です。



その対面に立つのは、2008年3月に本研究科を修了した吹谷夏峰さんが制作した「そよぐ」という名の彫刻です。第82回国展彫刻部で入選したものです（2008年5月東京国立美術館）。

吹谷さんによると、制作意図は「ふとした風の香りにさそわれてやわらかな動きを見せる若い女性、その空気感を表現しました。前を見つめるだけでなく、立ち止まってそよぐ風の中に新しい発見をさがす、そんな豊かな大学生活を大切にしたい。」とのことでした。



こちらは、学部のマスコットキャラクターのカモンです。小学校教員養成課程美術副専攻（2001年3月卒）伊藤園子さんの作品です。キャンパスに時々現れるニホンカモシカをキャラクターとし、教育文化学部に来てください（come・on）とかけたもので、性別は、ジェンダーフリーに対応して、不詳・不定です。2000年春、一般公募し、6月8日に制定されました。



「カモン」像は、1号館（現在の国際資源学部1号館）の玄関にありましたが、1号館を国際資源学部に委譲したことによって、4号館1階入口に移設されていました。今回、峯田作品の本学部への移設に伴い、3号館1階ピロティに移動しました。4号館1階入口だと、なかなか人に気づかれにくいのですが、3号館だと学生みんなが通りますし、60周年記念ホールは学内、学外の多くの人利用するので、目にとまりやすいと思います。

最近、全学の学生広報スタッフオリジナルキャラクターにニホンカモシカの「キース」と「ぐーす」が採用されてからは、その関係が問われるところですが・・・。

【文責：佐藤修司】



ぐーす

キースの幼なじみ。  
秋田路の頭飾りをつけている。  
●一人称／ぼく  
●行動・性格／おっとりしていて  
些細なことには動じない  
●好きな食べもの／辛い物



キース

昔ケンカをしたときに角が1本折れてしまった。秋田路の胸飾りをつけている。  
●一人称／オレ  
●行動・性格／キレッキレな一方で  
すぐ不安になる  
●好きな食べもの／甘い物

## 2020年の年頭にあたって

新年あけましておめでとうございます。

2020年はオリンピック、パラリンピックの年でもあります。日本や大学を取りまく状況は例年通りまた一層厳しさを増しそうです。

第一は少子高齢化です。人口減少は予測を超えて進みつつあり、東京などの大都市部を除いた地方は特に深刻です。18歳人口の減少はもちろん、児童生徒数の減少は本学部の将来に大きな影響を与えます。

第二は国と地方の財政状況と経済状況です。財政赤字や国際競争力の低下は大学の運営費交付金の削減や競争的資金化、選択と集中につながります。経済状況は税収だけでなく、保護者、学生の家計、進学、就職にも影響します。

第三は地球温暖化などの気候変動や自然災害の増加です。プレート型の地震や直下型の地震の危険も高まっています。このようなリスクに事前に

教育文化学部長 佐藤修司

備えるとともに、起こったときの長期的な影響を予測して対応しなければなりません。

第四は国際化への対応です。国際的視点を持つこと、一定の語学力を持つことが必要です。留学生を送ること、受け入れること、研究面で国際交流を増やすことが求められます。そのためには、留学生と日本人学生の交流をもっと増やす必要があります。

第五に Society5.0 への対応です。AI 時代に対応するデータサイエンスの教育・研究を学部としても取り組む必要があります。地域の企業人、公務員として、学校教員として必要な素養を身に付けられるよう、カリキュラム、科目を見直さなければなりません。

学部・研究科の未来に向けてみなさんの理解と協力をお願いいたします。

発行 **秋田大学教育文化学部／教育学研究科**

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu\\_magazin.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html)

教職大学院通信「暁鐘の音（かねのね）」⇒[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate\\_magazin.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html)

\* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910年制作）を聴くことができます。

[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu\\_symbol.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html) をご覧下さい。